

ILA-2018（ベルリン国際航空宇宙展）報告

（一社）日本航空宇宙工業会は、4月25日から4月28日まで、ILA-2018（ドイツ・ベルリン国際航空宇宙展）に参加し、宇宙分野での国際交流・情報収集及びJA2018 TokyoとJA2021の広報活動を実施した。以下、その活動概要を報告する。

1.ILA-2018 Berlin Air Show

1.1 全体概要

ILAは1909年にフランクフルトで開催されたInternationale Luft Ausstellung（国際航空展示会）を第1回（主な出展は飛行船）とし、その後宇宙分野が加わり、Internationale Luft und Raumfahrt Ausstellung（国際航空宇宙展示会）となった。現在は主に略称ILAが使用されている。

ILAは、隔年（偶数年）に開催されており、世界的にも仏パリ・エアショウ、英ファンボロー・エアショウに次ぐ規模となっている。

ILA開催会場は、ベルリン市街中心部から南南東に約20km離れたシューネフェルト空港に隣接する建設中の新空港（新空港名はBerlin Brandenburg Airportで、2020年以降に新空港ビルが開港予定）を使用して行われた。新空港のTaxi Wayで航空機の地上展示が行われ、隣接する常設の展示建屋で屋内展示が行われた。

ベルリン市街から会場へのアクセスは、鉄道（エアポートエクスプレスであれば約25分）とシャトルバス（10分弱）を乗り継ぐこととなる。

エアショウ	パリ（奇数年） 2017年6月実績	ファンボロー（偶数年） 2016年7月実績	ベルリン（偶数年） 2018年4月実績
開催期間	7日間	7日間	5日間
展示航空機	約140機	約180機	約200機
来場者・合計	約32万2千人	約14万3千人	約18万人
出展社	2,381社（48ヶ国）	約1,500社（52ヶ国）	約1,100社（41ヶ国）



航空機の地上展示 ©ILA：A350、A380、ベルーガ、An-225、C-130、P-1等



AIRBUSのベルーガ輸送機



米軍のF-35A



米軍のCV-22オスプレイ

ILA-2018における航空機の展示は、飛行展示と地上展示を合わせて約200機で、ドイツ空軍の手厚いバックアップを受けている。

Airbus社はA350XWB、A380-800（エミレーツ航空の受領第100号機）、ベルーガ輸送機等を地上展示していた。A380は室内見学が可能で、長い行列が出来ていた。米軍は、CH-53K、F-15、F-16、F-18、F-35、C-130J、C-17A、CV-22オスプレイ等を展示していた。CV-22オスプレイも機内見学が可能で、こちらも行列が出来ていた。

飛行展示では、旅客機のA350が大型機であることを感じさせない軽快な飛行を行ったことに加え、ドイツ空軍のEurofighter タイフーン等が轟音と共にアクロバット飛行を行った。

1.2 日本関係の展示

(1) 防衛装備庁

日本関係の航空機展示では、防衛装備庁によるP-1哨戒機2機の出展があった。1機が地上展示機であり、1機は飛行展示用である。昨年（2017年）6月のパリ・エアショウではP-1が地上展示されたが、今回は飛行展示も加わった。他の旅客機と同じく非常に静かな飛行展示でありかつ、小旋回、急上昇など見所も多くあった。また、会期2日目にはP-1地上展示機の横のシャレーでレセプションが開催され、多くの関係者の来場が得られたとの事である。

(2) 当工業会

当工業会は、ILA共催者であるメッセ・ベルリン社の協力を得て、JA2018 TOKYO出展予定企業との調整、来場者誘致、展示会支援会社との調整及びJA2021の広報活動を目的



P-1地上展示と防衛装備庁シャレー©ILA



P-1飛行展示

としブース展示を行った。

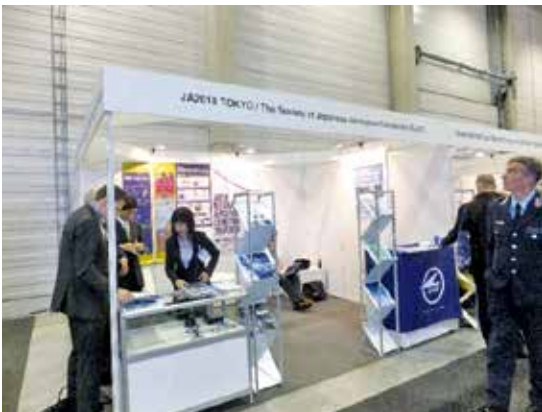
SJACブースには、JA2018 TOKYOのタペストリー、ポスターの掲示、パンフレット、JA2021開催告知のチラシおよび、日本の航空宇宙産業についてまとめた“Japanese Aerospace Industry 2017”、“Directory of Japanese Space Products & Service 2016-17”など各種の資料を展示、また、Japan Space Industry Workshopに参加していただいた企業のポスター、パンフレット等も展示した。

SJACブースはHall-4（Space Pavilion）に位置し、DLR、OHBなどの宇宙関係の政府機関・団体、企業の展示の近傍であったことから、

宇宙関係者の来訪が多く、宇宙関係機関・団体、企業などの関係者に対する効果的な説明・PR活動ができ、JA2018 TOKYO、JA2021という展示会を知ってもらう良い機会となった。

日本の航空宇宙産業についてまとめた“Japanese Aerospace Industry 2017”、“Directory of Japanese Space Products & Service 2016-17”などの資料は、会期2日目までに全てなくなるなど、日本の航空宇宙産業に対する関心の高さが感じられた。

SJACブースには、会期初日から2日目にかけて、八木 在ドイツ日本大使、三澤公使、



SJACブース



SJACブースにおける来客対応



当工業会の展示ブースにて：福田政務官（左）にご説明する山北常務理事（右）

防衛省 海上幕僚監部 装備計画部長 柴田 海将補ほかの来訪があり、ILAにおける当工業会の活動、JA2018 TOKYO、JA2021などについて説明、激励のお言葉を頂いた。

会期4日目には、防衛大臣政務官の福田建夫 衆議院議員にもお越しいただき、ILAにおける当工業会の活動を紹介する機会を得た。

また、今回のILAでは、会期前日の在ドイツ日本大使館でのレセプション、会期初日のBDLI、メッセ・ベルリン共催のウエルカムレセプション、会期2日目のP-1展示場での防衛装備庁主催のレセプションなど、多くの交

流の場を使い、各国工業会、出展者、関係者他との交流・Networkingを図ることができ、有意義であった。

(3) その他の展示

川崎重工業(株)はP-1哨戒機やC-2輸送機などを紹介する展示ブースを出展していた。

また、東京都の中小企業体（TMAN：Tokyo Metropolitan Aviation Network：都立産業技術センターに加え、金属技研(株)、菅沢製機(株)、(株)ウラノ、(株)由紀精密、大和合金(株)の5社）が出展しており、Japan Hourイベントを企画して多くの人を集めていた。



川崎重工業の展示ブース



東京都のTMAN展示ブース

1.3 宇宙展示館 (Hall-4) の概要

Hall-4はSpace Pavilionであり、主に宇宙関係の展示が行われている。会期初日にはドイツ・メルケル首相も来場された。

ESA (European Space Agency: 欧州宇宙機関) の展示では、欧州が実施している各種の宇宙活動が紹介されていた。DLR (ドイツ宇宙機関) の展示ではコンセプトモデルではあるが、有翼の宇宙往還機や超低騒音ジェット機 (先尾翼、胴体後方のエンジンを包み込む形の主翼形式) が目を引いた。

JAXAは、DLRの展示スペースの中にスタンドを設けて、小惑星探査機「はやぶさ2」

の実物大模型を展示していた。この「はやぶさ2」模型は、この後、欧州の他の展示会などを巡ってから日本に帰るという事である。

ドイツ企業・機関では、OHB (衛星メーカ)、ブラウンフォーファー研究所も広い面積で展示していた。

他の地域では、ロシア宇宙庁 (ROSCOSMOS) とロシア企業群が広いスペースで各種の衛星、宇宙船及びロケットの展示を行っており、その底力を示していた。その隣にはウクライナ企業の展示があった。



Hall-4の前のAriane-6大型模型



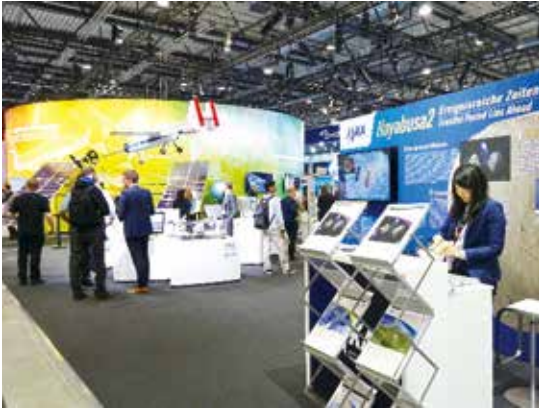
Ariane-6の模型を手にするメルケル首相
©ILA



DLR：有翼宇宙往還機



DLR：超低騒音ジェット機



JAXAスタンド、左奥に「はやぶさ2」



OHB展示ブース



ロシアRoscosmosブース



ウクライナYuzhnoyeブース

ILAはパリ、ファンボローに次ぐ3番目の規模の展示会として位置付けられているが、宇宙関係を重点的に扱い、他とは異なる特色を出そうとしている。今後、我が国の宇宙関係企業も何らかの形で参加する価値は十分にあると考えられる。

2. 宇宙分野における国際交流：Japan Space Industry Workshop

会期3日目（4月27日）、ILA-2018のConference会場で、Japan Space Industry Workshopを開催した。まず、ドイツ航空宇宙工業会BDLIのVolker Thum専務理事からWorkshop

開催歓迎のご挨拶を頂いた。引き続き、日本の宇宙産業政策に関して経産省・宇宙産業室中西徹係長から、JAXAの産業振興策に関してJAXA新事業促進部中山大志氏から紹介を頂き、日本の宇宙産業全体の紹介を当工業会の山北常務理事が行った。その後、(株)IHIエアロスペース、多摩川精機(株)、川崎重工業(株)、アストロスケール(株)、サムテック(株)の5社から、各社の宇宙事業の紹介を行った。さらにWorkshop最後には、当工業会から、今年11月に東京ビッグサイトで開催するJA2018 Tokyo及びJA2021の広報活動を行った。

当WorkshopはILAでは2014年、2016年に引き続き、第3回目のWorkshopであったが、欧州等から約40名の参加があり、主催者側より今後とも参加を歓迎するとの意向が伝えられた。

Workshop後には、海外聴講者から個別企業のコンタクトポイント情報の問い合わせ等があり、情報発信の有効な機会になったと思われる。



BDLI専務理事 Volker Thum氏



経産省宇宙産業室 中西 徹係長



JAXA新産業促進部 中山 大志氏



当工業会 山北 和之常務理事



IHIエアロスペース 村上 淳参与



多摩川精機 岡島 毅課長



川崎重工業 大竹 智尚課長代理



アストロスケール John Auburn氏



サムテック 山本 猛課長



当工業会 長井 利幸部長

最後になりましたが、ブース出展、ワークショップ開催などの調整にご尽力いただきま

したメッセ・ベルリン（ILA主催社）日本代表部の久保田弥生代表に御礼申し上げます。

〔（一社）日本航空宇宙工業会 技術部（宇宙担当）部長 宇治 勝
国際航空宇宙展事務局 部長 長井 利幸〕